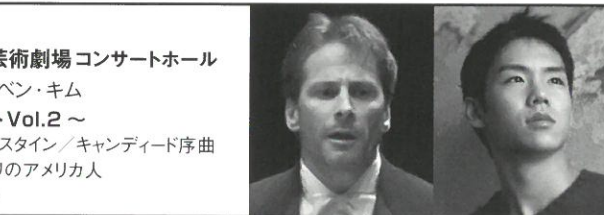


CONCERT INFORMATION

定期演奏会予定



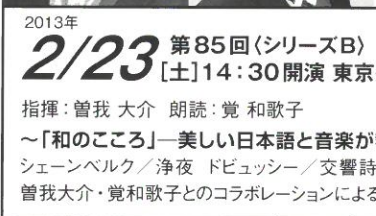
6/9 第82回(シリーズB)
 [土]14:30開演 東京オペラシティコンサートホール
 指揮:ペテル・フェラネツ ヴァイオリン:スラヴァ・チェスティグラゾフ
 ~怒濤のロシア音楽 Vol.3~
 チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲
 チャイコフスキー/祝典序曲「1812年」(戦勝200年記念)
 リムスキー=コルサコフ/シェヘラザード



9/30 第83回(シリーズB)
 [日]14:30開演 東京芸術劇場コンサートホール
 指揮:スティーヴン・マーキュリオ ピアノ:ベン・キム
 ~ザッツ・アメリカン・エンタテインメントVol.2~
 リチャード・ロジャース/10番街の殺人 バーンスタイン/キャンディード序曲
 ガーシュウィン/ラブソディ・イン・ブルー パリのアメリカ人
 カーペンター/摩天楼(スカイスクレイパーズ)



11/2 第84回(シリーズA)
 [金]19:00開演 東京芸術劇場コンサートホール
 指揮:内藤 彰 サックス/上野 耕平(第28回日本管打楽器コンクール優勝)
 ~ブルックナー世界初演シリーズ~
 吉松隆/サクソフォン協奏曲「サイバーバード」
 ブルックナー/交響曲第7番(川崎校訂版世界初演)



2013年
2/23 第85回(シリーズB)
 [土]14:30開演 東京芸術劇場コンサートホール
 指揮:曾我 大介 朗読:覚 和歌子
 ~「和のこころ」—美しい日本語と音楽が響き合うとき~
 シェーンベルク/浄夜 ドビュッシー/交響詩「海」
 曾我大介・覚和歌子とのコラボレーションによる新作 他



3/20 第86回(シリーズA)
 [水・祝]14:30開演 東京芸術劇場コンサートホール
 指揮:内藤 彰 ピアノ:木田 左和子
 ~マーラー新校訂版シリーズ~
 シマノフスキ/交響曲第4番(協奏曲風)
 マーラー/交響曲第1番「巨人」(新校訂版)

※都合により、出演者・演目が変更になる場合がございます。ご了承ください。

各回S:6,000 A:4,500 B:3,000 C:2,000 リラックスシート:3,000(東京芸術劇場のみ)
 ●学生半額(25才以下、S除く) ●小中高生¥1,000(保護者同伴、S除く) ●シニア割10%引(60才以上)
 お申し込み・お問い合わせ:東京ニューシティ管弦楽団 事務局 Tel.03-5933-3266

2012年度友の会
 会員募集中!

年会費500円 ●定期演奏会チケット15%引き

●その他コンサートの割引有
 ●CD・書籍等の割引販売...等々

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA CHORAL SOCIETY

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA
 TOKYO CHORAL SOCIETY

東京ニューシティ管弦楽団 東京合唱協会
 第81回定期演奏会 第21回定期演奏会

2012年4月25日(水)19:00開演 東京オペラシティコンサートホール
 主催:東京ニューシティ管弦楽団/共催:東京合唱協会 Tokyo Opera City Concert Hall Takemitsu Memorial

第81回定期演奏会

指揮：内藤 彰 Conductor : Akira Naito

コンサートマスター：鈴木 順子 Concert Master : Junko Suzuki

松村禎三 Teizo Matsumura (1929-2007)

ゲッセマネの夜に (2005年再改定版)
To the Night of Gethemane

〈休憩15分〉 intermission [15min.]

ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

レクイエム (1873年)

Requiem

- I- REQUIEM (TOTENMESSE) レクイエム (入祭文)
II- DIES IRAE (SEQUENCE) 怒りの日 (読誦)
- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 怒りの日 | 6. 恐るべきキリスト |
| 2. 妙なるラッパの音 | 7. 思い出し給え |
| 3. 死は狼狽する | 8. 我は嘆く |
| 4. 書き記されし書物は | 9. 判決を受けたる罵られし者 |
| 5. あわれなる我 | 10. 涙の日なるかな |
- III- OFFERTORIUM オッフエルトリウム (奉献文)
IV- SANCTUS 聖なるかな (三聖唱)
V- AGNUS DEI 神の小羊 (神羊唱)
VI- LUX AETERNA 永遠の光を (聖体拝領唱)
VII- LIBERA ME (RESPONSORY) 我を解放し給え (赦禱唱)

〈1869年初演〉※

※プログラムノートをご参照ください。

{Profile}

Conductor : Akira Naito 内藤 彰 (指揮)



名古屋大学理学部在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科 (指揮専攻) にて、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明各氏他に師事し、修了後 (社) 山形交響楽団の専属指揮者を務めた後、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。

海外では、1991年ベオグラードフィル、1992年にはモスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮。その後1996年5月、ロシアの国立ヴァロニーシュ歌劇場にて『セヴィリアの理髪師』を、1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて『蝶々夫人』、また2001年3月にはサンクトペテルブルグ・カペラ交響楽団、2002年5月

ロシア国立ウリヤノフスク・アカデミー交響楽団に客演している。その他にも2001年12月の北ハンガリー交響楽団、2002年7月ミラノスカラ座フィルのメンバーを中心とする州立ロンバルディア室内管弦楽団の北イタリアツアー、2003年3月メキシコ州立交響楽団、2010年4月にはメキシコ国立交響楽団の定期演奏会を指揮している。また2011年5月にブルガリア国立プロヴディフィルに客演した。

2004年1月に行なわれた歌劇『蝶々夫人』公演 (東京ニューシティ管弦楽団第34回定期演奏会) にて、日本の伝統的『かね類』 (寺の釣鐘の音、お椀型のキン、風鈴他) に、12音の音程を持たせ『楽器』として特注創作、それにより作曲者の願う本当の『蝶々夫人』の世界初演に成功し、音楽界の話題をさらうことになった。更に2004年7月には、イタリアのブッチェーニ・フェスティバルにおいて、この鐘が使用され、地元の新聞・テレビに大きく取り上げられている。

2004年以来ブルックナーの交響曲第8番の Adagio 楽章をはじめ、交響曲第5番、第9番など新稿の世界初演を果たした。この「ブルックナー新稿の世界初演シリーズ」の話題は、多くの新聞、音楽雑誌を賑わすのみならず、ライブ録音のCDは、「レコード芸術」誌などで高く評価されている。また、日本初のプライトコップ新版によるベートーヴェン交響曲チクルスも大いに注目を集めている。

2009年1月に初めての著書「クラシック音楽 未来のための演奏論〜くつがえるオーケストラ演奏の常識!〜」を毎日新聞社より出版し、斯界に大きな反響を呼びおこし話題にのぼったことは記憶に新しい。また昨年5月の第74回定期演奏会にて、初演以来世界中で誤って演奏されてきたドゥヴォジャーク作曲【新世界から】の数多くの楽譜の誤りを訂正し世界初演した。今後その校訂版は世界に向け発信されていく予定である。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及びプロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者、日本指揮者協会幹事。



Tokyo New City Orchestra 東京ニューシティ管弦楽団

1990年設立。設立者は現在音楽監督を務める内藤彰。第1回定期演奏会を東京文化会館にて行ない、楽団の活動が公にスタートした。

定期演奏会、名曲コンサート、オペラ、バレエ、音楽鑑賞教室、レコーディングなど幅広く活躍してきている。なかでも定期演奏会では「いつも なにかが あたらしい」をキャッチフレーズに、最新の音楽的な研究成果をいち早く取り入れたプログラミングに定評があり、作曲家が生きていた時代の奏法なども積極的に取り入れるなど、その斬新かつ意欲的な内容は話題をよんでいる。また近年では、日本人作曲家の楽曲を少しずつついで後世に繋いでいくことを使命と感じ、邦人曲の演奏もたびたび行なっている。

次世代の子どもたちへの音楽教育にも力を入れており、学校公演や音楽鑑賞教室、ワークショップなども積極的に進めている。

クラシックのみならず、バート・バカラックをはじめとして、さだまさし、ASKA、平原綾香、水樹奈々など、ポピュラー分野でも幅広い活動をし、どれも好評を得て、多くの皆様に親しまれている。最近では、ロック歌手スティングやイル・ディーボのジャパントアールに参加し、数多くの観衆を魅了した。また、NHKテレビドラマ「坂の上の雲」や映画「悪人」などの音楽の収録を行なうなど、あらゆるジャンルに対応する体制を整えてきている。

現在、本拠地を練馬に構え、地元にも貢献できるオーケストラを目指し、取り組みを進めている。

2006年には(社)日本オーケストラ連盟に加盟、2011年正会員に昇格。2007年に初の中国上海公演、2009年にはベトナム公演を行い、大成功を取める。

2010年4月に創立20周年を迎え、さらなる発展を目指している。

URL: <http://tnco.or.jp>

Tokyo Choral Society 東京合唱協会

1984年、音楽監督に内藤彰を擁し、オペラや様々なコンサートでソロ活動をしている声楽家を中心に結成され、これまで定期演奏会、各地での特別演奏会、ファミリーコンサート、第九公演、各種イベント出演の他、学校公演を年間数十回行なってきた。特に文化庁からの委託による「次代をになう子供の文化芸術体験事業」では各教育現場から、また海外からのオペラソリストとの共演等では、そのソリストや主催者等から絶賛されている。その他NHKFM、NHK学校放送、教育用CDの録音、TV番組に出演する他、バイエルン国立歌劇場日本公演(NHKホール)の合唱に30名がエキストラ出演、同歌劇場からその高い歌唱力を絶賛された。オーディションで入団した団員たちの中には、その後日本音楽コンクール等各種のコンクールに入賞又は国内外の主要歌劇場でソリストを務めている者も多いが、その一方では合唱団としてのアンサンブルの研鑽を欠かさない日本では稀有なプロフェッショナルの混声合唱団である。

URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~tk-ch-so/>

Program Notes

西 耕一 (音楽評論家)
Koichi Nishi

■松村禎三／ゲッセマネの夜に

生と死を根源から見つめ、真実を問いかける松村禎三の芸術

日本の作曲家の中でも、松村禎三(1929-2007)は独自の頂点を極めた存在である。作曲の師は池内友次郎と伊福部昭であり、同世代は黛敏郎、矢代秋雄、三木稔、武満徹等になるが、その誰よりもスタートは遅い。藝大受験の身体検査により不治の病であった結核が見つかり、21歳から5年半を死と隣り合わせに療養所で過ごしたからである。病床で動けぬまま何日も一点を見つめた経験は、奇しくも仏教の坐禅に近い境地となり、療養所で出会った俳句は、五・七・五の最小限から物事を見つめ無限さへ表現する想像力の拡がりとなった(俳人松村は高校時代の寺山修司に投句で勝ったほどで、句集も出版されている)。

デビューは結核回復と重なる1955年、日本音楽コンクール管弦楽部門で第1位入賞を果たしてからである。その後の主な創作は、オペラ《沈黙》(遠藤周作原作)、2つの交響曲、2つのピアノ協奏曲、チェロ協奏曲等、演奏会用作品だけでなく、130作に及ぶ映画音楽や劇音楽も作曲した。

初期の《交響曲第1番》(1965)や《管弦楽のための前奏曲》(1968)等では脱ヨーロッパを目指し、アジアの発想による「生命の根源に直結したエネルギー」を展開、13年をかけたオペラ《沈黙》(1993)等を経て、東西を問わない普遍的創作の色が濃くなるが、生命の根源を見つめ、原点からイメージを膨らませる作曲スタイルは終生変わることがなかった。何度改作しようとも、どれだけ時間がかかろうとも、真実を求め、問いかける、真の芸術家であった。

曲について

《ゲッセマネの夜に》(2002/2003/2005)は松村の最後の管弦楽曲である。ゲッセマネとはキリストが最後の晩餐を行い、祈りを捧げ、捕らえられた地名。委嘱初演はオーケストラ・アンサンブル金沢と岩城宏之の指揮によるが、その頃の松村は心筋梗塞や痛を経験、死と隣り合わせの極限でありながら、二度の改作も行い、その間に洗礼も受けた。

曲は、そのゲッセマネの夜に、松明や武器を持った群衆や弟子に取り巻かれたキリストを、金で売り渡したユダが接吻で示すシーンを描いたジョットのフレスコ画『ユダの接吻』(1305)からイメージを得ている。

キリストの真っ直ぐに見据えた視線、ユダの複雑な表情、時間が凍りつき永遠と瞬間が交差するような空間を、松村は交響詩的作品に仕立てた。構成はAABB'C+コーダ。執拗な同音連打によって高まる緊張の迫真性や、コーダで美しくも哀しい祈りを捧げるヴァイオリンソロは聴き所である。以下に松村の晩年の心境がよく現れた自作解説を引用しよう。

「この曲を書いている間、終始私は一つの絵と向かい合っていた。ゲッセマネの夜、ユダがイエスに接吻するジョットの名作のコピーである。二人が対い合っている部分を拡大したものであるが、イエスもユダもすばらしい顔をしている。イエスのまなざしはユダを突き刺し、通りこして永遠の彼方に人間の悲しい営みを見とおしているように思える。この透徹さにあやかりたいという思いがこの曲を書くためのエネルギーの基盤になった。(2005年6月20日)。

編成は、フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ、コールアングレ、クラリネット2、ファゴット、コントラファゴット、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、打楽器2(ティンパニ、大太鼓、タムタム、シンバル、ヴィブラフォン、シロフォン、マリンバ、チューブラーベル)弦楽5部。



ユダの接吻
ジョット・ディ・ボンドーネ画

■ヴェルディ／レクイエム

レクイエムは本来、カトリック教会で死者のために執行されるラテン語によるミサで、西洋では古来多くの音楽家がこのミサのために聖歌を作曲してきた。それらは教会や為政者に仕える音楽家たちにとっての「業務」だったが、時代が下って19世紀ロマン主義時代になると作曲家はそうした「業務」を離れ、自己の精神や芸術観を反映した作品を生み出すようになる。ベルリオーズ、フォーレ、ヴェルディ、ドヴォルザークなど、今日の我々が名作と考える「レクイエム」は、新時代のそうした創造精神の発露として生まれた宗教作品なのである。

オペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)が畑違いの宗教音楽を手がけることになった直接のきっかけは、詩人アレッシンドロ・マンゾーニ(1785-1873)の訃報だった。マンゾーニはイタリアの国家統一の精神的支柱となった歴史小説『いいなづけ』を著した作家・詩人であり、彼の高い知性を敬愛していたヴェルディはその死に衝撃を受けた。作曲家はこの国家的詩人を追悼するためにレクイエムを捧げたいと思ったのだった。

じつはその5年前の1868年にロッシーニが亡くなった時、ヴェルディの発案によってイタリア人作曲家たち13人の共作による追悼のためのミサ曲を作る計画が進行し、破綻したことがあった。ヴェルディは自分の分担として作曲した「リベラ・メ」を生かし、今度は一人で作曲することにした。実務的な才能にも長けていたヴェルディは、著作権を管理する出版社リコルディを通じて、マンゾーニが住んでいたミラーノ市に演奏費用の負担を求め、了承された。

当時のヴェルディは《運命の力》《ドン・カルロ》《アイーダ》を発表してすでに技術的には円熟の極にあった。しかし人々を劇場に呼び込む娯楽作品とは異なるもっと厳粛な宗教作品を書きながら、60歳のヴェルディは新たな精神状態を体験したようだ。「私は喜び勇んでミサ曲に取り組んでいます。なにやら真面目な人間になってしまったようで、私はもう太鼓など叩きながら『さあ皆さん、お入り、お入り』と呼び込みをするピエロではなくなったような気がします」(1874年2月28日)。こうしてヴェルディはミサ曲のなかに彼自身の死生観(それは非常にラテン的なものだ)を真面目に、濃厚に表現した。そこには避けることのできない死への恐怖と祈りが「まるでオペラのように」リアルに描かれる。若い頃から鍛えてきた対位法の技術とオペラで培った劇的な語法を駆使しながら、ヴェルディは死を前にした人間の嘘偽りのない感情を芸術作品へ昇華することに成功したといえようか。

初演は予定どおりマンゾーニの死の翌年の命日(1874年5月22日)にミラーノのサン・マルコ教会で行われた。演奏はスカラ座を中核とする100名のオーケストラと120名の合唱に、当時の一級のオペラ歌手、テレザ・ストルツ(S)、マリア・ヴァルトマン(Ms)、ジュゼッペ・カッポーニ(T)、オルモンド・マイーニ(B)がソロをつとめたことから、これが教会におけるミサではなく、明らかに劇場やコンサート会場での演奏を意識した作品であることがわかる。

初演はセンセーショナルな成功を収め、その後パリ、ロンドン、ウィーンへのツアーも行われた。各国での評価は(それまでヴェルディの作品に懐疑的だったドイツ語圏においても)非常に高く、ヨーロッパ中がヴェルディのさらなる芸術的深化を認めることになった。

楽曲構成は以下に示すとおりだが、今回の演奏では第7曲の「リベラ・メ」に《ロッシーニのためのミサ曲》のために書いた原曲(1869年)が使われる。調や展開に多少の異同があるが、これが《レクイエム》全体の構想の核になっており、実際の演奏が聴けるのは非常に興味深い。

〈楽曲構成〉

〔第1曲〕 レクイエムとキリエ———4声の独唱と合唱

〔第2曲〕 怒りの日———4声の独唱と合唱

怒りの日—合唱

妙なるラッパの音—合唱

死は狼狽する—バス独唱

書き記されし書物は—メゾ・ソプラノ独唱

あわれなる我—3声の独唱(ソプラノ、メゾ・ソプラノ、テノール)

恐るべき王キリスト—4声の独唱と合唱

思い出し給え—2声の独唱(ソプラノ、メゾ・ソプラノ)

我は嘆く—テノール独唱

判決を受けたもののしられし者—バス独唱

涙の日なるかな—4声の独唱と合唱

〔第3曲〕 オッフエルトリウム(奉獻唱)———4声の独唱

〔第4曲〕 サンクトゥス(聖なるかな)———二重合唱によるフーガ

〔第5曲〕 アニュス・デイ(神の子羊)———2声の独唱(ソプラノ、メゾ・ソプラノ)と合唱

〔第6曲〕 ルクス・エテルナ(永遠の光を)———3声の独唱(メゾ・ソプラノ、テノール、バス)

〔第7曲〕 リベラ・メ(我を解放し給え)———ソプラノ独唱と合唱、フーガ・フィナーレ

〈編成〉

・歌唱部分

独唱：ソプラノ、メゾ・ソプラノ、テノール、バス

合唱：ソプラノ、コントラルト、テノール、バス

・楽器編成

ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット4、ホルン4、トランペット4、トランペット(舞台裏)4、トロンボーン3、オフィクレイド1、ティンパニ、大太鼓、弦楽器